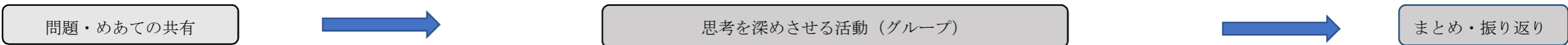


【本時の目標】 読み手の立場に立って、絵画の魅力が伝わるように、伝えたい事実や事柄等が十分に書き表されているかを検討し文章を整えることができる。(本時5/7)

【本時における言葉による見方・考え方】 絵の魅力に着目して、読み手の立場に立って文章を読み返し、根拠が明確になるように文章の構成を再考したり、語彙を再選択したりして、絵の魅力がより伝わるようにピクチャーガイドを推敲する。

<p>振り返り</p>	<p>まとめ</p> <p>今日の課題解決ができたところ…</p> <p>課題…</p> <p>次の時間には…</p>	<p>めあて</p> <p>読み手の視点に立って、伝えたい絵の魅力を推敲しよう。</p>	<p>前時の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん情報があるので、どれを選ばなければいいか。</li> <li>・どんな表現したらいいか。</li> <li>・何をポイントにして書けばいいか。</li> </ul> <p>絵の特徴 ←</p> <p>魅力</p>	<p>問題</p> <p>どんなピクチャーガイドにすればいい？</p>	<p>中 中 中</p> <p>美術 美術 美術</p> <p>館 を 作 ろ う</p> <p>く</p> <p>ピクチャーガイドを書く</p>	<p>◎深い学びの実現に向けた「問題」と「めあて」の工夫</p> <p>前時では中中美術館に展示する絵について書いたピクチャーガイドをグループで読み直し、ここが魅力であるという観点を再検討しながら推敲を行なっている。観点は絞られたものの、事前に教師が準備した資料を活用しながら書いているため、選んだ資料の一部をただ抜き出して終わらせてしまうグループが出てきてしまうと考えられる。そこで本時ではもう一度読み手を意識させ、ただ単に情報の転記で終わらせるのではなく、読み手に魅力を伝えるための根拠になっているのかを考えさせるようにめあてを設定している。</p> <p>◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て</p> <p>さまざまな資料を通して、どのような情報が絵の魅力伝えるために必要であるのか選択はできるものの、自分の考えを支える事実や理由になっているのかを考え直してみると弱さが残る。そこで自分たちが伝えたいことは何かという自分中心の視点から、読み手の立場に視点を変えさせることで文章の広がりや深まりについて考えさせる。このことにより単に情報の転記で終わらせるという作業から、絵の魅力を伝えるための説得力を高める文章になるように根拠の明確にして文章を推敲できると考える。</p>
-------------	---	--	---	-------------------------------------	---	---



<p>【作品の魅力を伝える文章にするのは、どのような視点をもって推敲すればよいかを考える。】</p> <p>T：前回の授業で困ったこととか、上手いかなかったこと教えて。</p> <p>S：いっぱい情報があって、どれをピクチャーガイドに書けばいいか分からなかったです。</p> <p>S：伝えたいことはあるけど、どんな風に表現したらいいかが難しかった。</p> <p>S：何を書けばいいか分からなかった。</p> <p>T：そうやね。まだそれぞれ課題があるね。</p> <p>今日はどんなことを考えたら課題が解決できると思う？</p> <p>S：絵の特徴。絵の良さ。</p> <p>T：確かに！そしたらみんなで絵の特徴とか絵の良さをもう一回探そう！推敲できそう？</p> <p>S：どうやろう？</p> <p>S：分からん。</p> <p>T：ヒントあげようか？</p> <p>みんなは、読み手を意識して観点を選んだ？</p> <p>読み手を意識して表現を考えた？</p> <p>読み手が欲しい情報はどんな情報やろうね？</p> <p>つまり今日着目するポイントは「読み手の視点」やね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】</p> <p>読み手の視点に立って、伝えたい絵の魅力の魅力を推敲しよう。</p> </div>	<p>T：それでは、グループでピクチャーガイドを推敲しましょう。</p> <p>(神奈川冲浪裏グループ)</p> <p>S1：読む人はどんなことを知りたいと思う？</p> <p>S2：やっぱり「波と富士山」はメインやけん、そのことはいるがやない？</p> <p>S3：そうやね。それは書きちょうけんもうええろ？他にある？</p> <p>S1：他にはないことない？葛飾北斎のこと入れろか？</p> <p>S2：もう1回資料を探してみよう。</p> <p>T：なんで作者の情報は必要なが？</p> <p>S1：それがあつたほうが、読む人が分かりやすいけん。</p> <p>T：自分たちのグループでこの絵の魅力は何だと話し合った？</p> <p>S2：「波と富士山」</p> <p>T：波はこんなふう描かれています。富士山はこうです。ということだけ伝えて本当に魅力が読み手に伝わるろうかね？</p> <p>S3：やっぱりもう一回絵を見てみよう。</p> <p>(モナリザグループ)</p> <p>S1：モナリザの謎については読み手が興味をもてそうやけん大丈夫やね。何か他に資料あつた？</p> <p>S2：探してみる。</p> <p>S3：何がええろ？</p> <p>T：たくさん情報が書けちょうね。でも本当に全部が絵の魅力伝えるために必要な情報？</p> <p>S1：必要！</p> <p>T：本当？数多く書けちょうことが魅力として相手に伝わることになるろうかね？</p> <p>S2：もう1回読み直してみよう。</p> <p>S3：本当に必要なことと、そうでもないことを考え直してみよう。</p>	<p>(オーヴェルの教会グループ)</p> <p>S1：絵の情報はこれでええがやない？他にないもんね。</p> <p>S2：そうやね。どんなこと直す？</p> <p>どんな風に表現したらええかと言われても、直せるところがないでね。どうする？</p> <p>T：直すところがない？本当？</p> <p>この書き方を読んでみて。</p> <p>(読み手を意識した書き方の資料を提示する。)</p> <p>自分たちの文章と比べてみて、「読み手を意識した表現」でなんか違いが分かる？</p> <p>S3：読んだ人が興味をもってもらえるように書かれちょう。</p> <p>S1：読み手を意識する表現ってそういうことか！</p> <p>T：では、現時点で出来ている所まで構いません。</p> <p>同じ絵を選んでいるもう一方のグループに、本当に「読み手の視点」になって書けているか聞いてもらいましょう。</p> <p>聞いたグループはアドバイスができるように、しっかり聞いてくださいね。</p>	<p>T：今日のまとめをおこないます。</p> <p>グループで推敲をして課題の解決ができたところ。また、まだ困っているところなどの課題。次の時間に考えたいことをノートに書きましょう。</p>
---	--	--	--

<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <p>本時で自分たちの課題をどのように解決していくのかについて、相手意識を持たせうえて推敲のポイントをグループで絞らせる。</p>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手がピクチャーガイドを読んだときに、自分たちが考える絵の魅力と根拠がつながっているのかどうか検討させる。</li> <li>・読み手を意識した表現になっているのか、表現の効果について考えさせる。</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <p>自分たちのグループの課題を解決するまでの思考の過程が振り返られるように、自分の言葉で具体的に説明させる。</p>
--	---	--

<p>評価規準</p>	<p>【思・判・表】読み手に絵画の魅力伝えるというピクチャーガイドの目的に応じて、様々な観点から絵画を捉え根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる構成や展開を工夫している。・読み手の立場に立って、絵画の魅力が伝わるように、伝えたい事実や事柄等が十分に書き表されているかを検討し文章を整えている。</p> <p>【知・技】ピクチャーガイドを書く際に、読み手に絵画の魅力伝えるために最適な動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞などを選択して使うことを通して、語彙を豊かにしている。</p>
-------------	--

※ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業においては、学習指導要領（平成29年3月告示）に基づいた授業づくりを行っているため、育成すべき資質・能力の3本柱による目標及び評価を設定しています。